

WELFARE [職場環境・福利厚生]

●社員食堂



本社内に社員食堂を完備。朝食・昼食・夕食をリーズナブルに利用できます。

●仮眠室



本社内・各駅には仮眠室を用意。仮眠の時間をゆったりと過ごせます。

●大浴場(本社)



本社内には大浴場があります。仮眠前・業務終了後などに汗を流せます。なお、駅にはシャワールームが設置されています。

●有給取得を奨励



有給消化率はほぼ100%であり、1週間の長期休暇も可能です。

●扶養手当・住宅手当



基本給と別に、扶養手当・住宅手当を支給しています。

●高い定着率を誇る会社



1998年に開通した多摩都市モノレール。開業当時から在籍している社員も多く、長く働いていただける会社です。

DATA [採用データ]

●勤務時間

日勤
(実働7時間45分、休憩1時間)
一昼夜交代勤務
(実働15時間30分、休憩3時間、仮眠5時間30分)

●昇給・賞与

昇給/年1回 賞与/年2回

●福利厚生

社会保険完備・制服貸与・社員食堂
立川市勤労者福祉サービスセンター加入
その他、各種助成金あり

●諸手当

通勤手当全額支給(上限:6万円/月)
時間外手当
扶養手当
住宅手当
宿泊手当

●休日・休暇

【年間休日120日以上】
4週8休・有給休暇・夏季休暇(3日)
リフレッシュ休暇(2日)
特別年次休暇(※消化できなかった場合は給与に還元)
慶弔休暇・産前産後休暇・育児休暇
看護休暇・介護休暇

MESSAGE [メッセージ]



多摩地域の 皆様と 未来のために

もともと東西を結ぶ鉄道網は整備されていた多摩地域でしたが、南北の移動には課題があり、これを解消するアクセスの整備は、地域の方々にとって長年の願いでした。そこで誕生したのが「多摩都市モノレール」です。1998年に上北台駅～立川北駅間、2000年に上北台駅～多摩センター駅間の全線で運行を開始。今や地域にとって欠かせない存在になっております。

「多摩地域の皆様と未来のために」を理念とする当社は、沿線情報誌の発行・沿線地域とのコラボレーションイベントなど、地域活性化につながるアクションも積極的に行っています。お客様を輸送するだけでなく、沿線地域に密着した「明るい駅づくり」をしていきたい。多摩地域のために、思いやりを持って働ける方にぜひご入社いただきたいと思います。

INFO [会社概要]

- 会社名/多摩都市モノレール株式会社
- 所在地/東京都立川市泉町1078番92
- 設立年月日/1986年4月8日
- 会社の目的
 - (1)軌道法に基づく一般運輸業
 - (2)スポーツ施設並びに食堂、売店、駐車場などの経営
 - (3)酒、たばこ、医療品の販売及び郵便切手、収入印紙の売りさばき
 - (4)不動産の売買、賃貸及び管理
 - (5)損害保険代理業及び自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業
 - (6)前各号に付帯する事業
- 資本金/1億円
- HP/<https://www.tama-monorail.co.jp/>

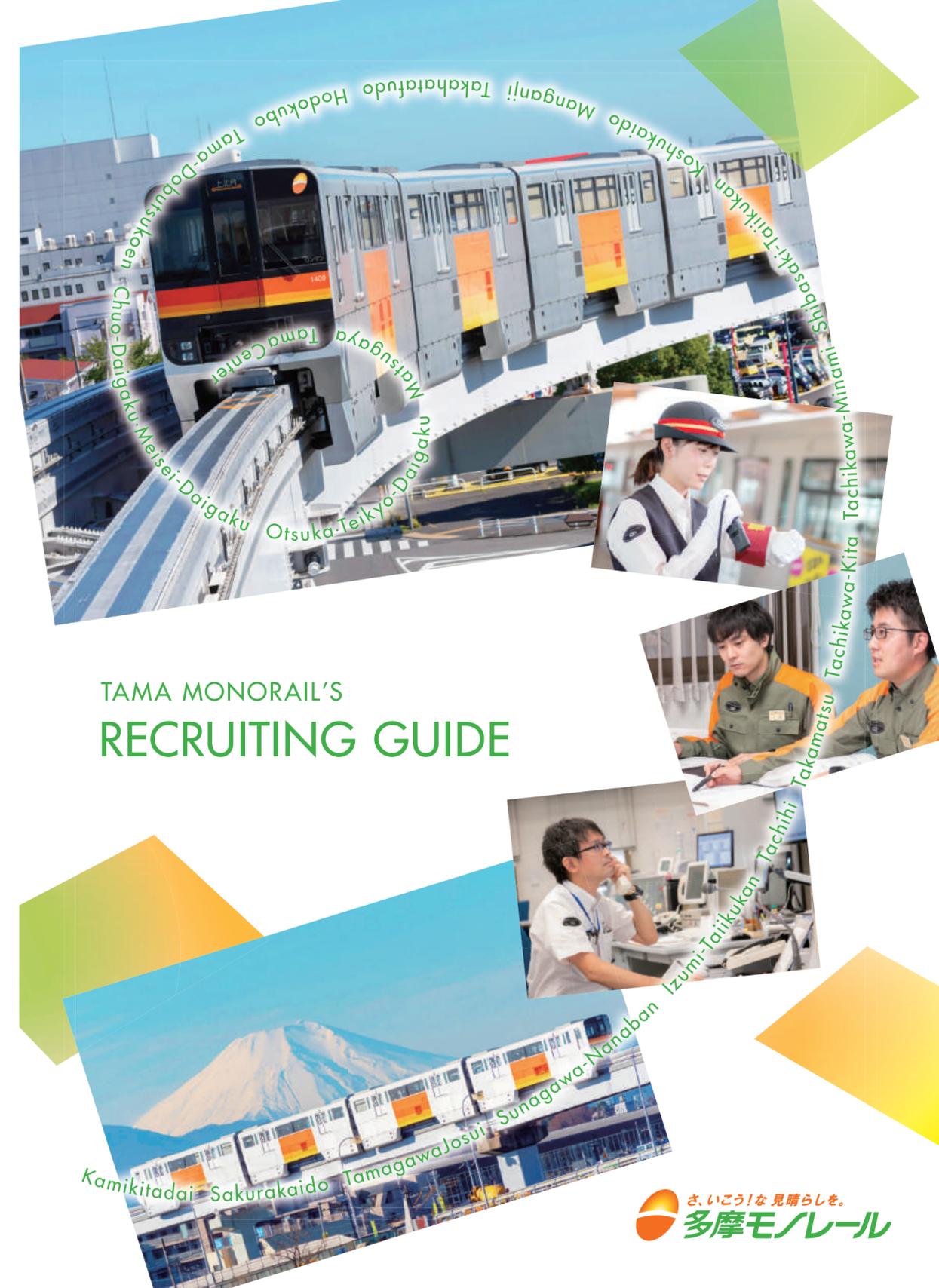
【お問合せ先】
総務部 人事グループ TEL:042-526-7809(直通)

www.tama-monorail.co.jp

◎多摩都市モノレール路線図



TAMA MONORAIL'S RECRUITING GUIDE



WORKS

多摩都市モノレールには「運輸職」「技術職」の2つのキャリアコースがあります。

運輸職

CAREER PLAN 1

駅務係員として。運転士として。
多摩地域の活性化を支える。

多摩都市モノレールの運輸職のキャリアは、「駅務係員」からスタートします。各駅でのお客様対応・収入金管理を経験した後、運転士養成教育を受講。「運転士」へとキャリアチェンジしていきます。

どんな時も、安全安心な
列車運行ができるように。

モノレールが走る軌道や車両、駅設備など、多摩都市モノレールのインフラを守っていくのが技術職の仕事です。設備管理所・車両管理所・本社部門のいずれかの配属となり、モノレールの専門家として、じっくりとキャリアを磨いていただけます。

技術職

CAREER PLAN 2

✓ 駅務係員

入社後は、多摩都市モノレール内各駅の駅務係員として、お客様対応・構内巡回・収入金管理・遺失物管理などを担っていただけます。

駅務係員の一日	09:00	09:30	12:30	13:30	18:30	19:30	01:00	06:30	09:00
	出勤・点呼・前任者からの引き継ぎ	窓口対応	昼食	券売機の締切業務など	夕食	終電までお客様対応(30分休憩あり)	仮眠	業務開始／朝のラッシュ対応	業務終了

POINT 朝9時～翌日9時までの宿泊勤務です。各駅事務所には、シャワールーム&仮眠室を完備!

✓ 運転士

当社の運輸職は全員、運転士を目指していただきます。上北台～多摩センター駅間をダイヤ通りに走行させるとともに、当社はワンマン運転を行っていますので、ドアの開閉・車内アナウンス等も行います。

運転士の一日	10:00	10:30	22:00	04:00	10:00
	出勤・点呼・アルコール検査	乗務開始 定期的に休憩を挟みながら乗務	仮眠	乗務開始	業務終了

※その日の乗務スケジュールにより、出勤時間・仮眠時間が前後します。

POINT 昼ごろから翌日昼ごろまでの宿泊勤務です。大浴場&仮眠室を完備!

社内試験等を経て運転士養成教育を約9ヶ月間受講

その他にも!

運輸職の方は、駅務係員・運転士のほか、列車の運行監視を行う「運輸指令」、総務や人事、ダイヤ作成などを担う「本社部門」といった配属先もあります。当社では定期的にジョブローテーション(配置転換)を実施しており、幅広い職種を経験することでスキルアップしていくことができます。



✓ 設備管理所



軌道桁、支柱、モノレール橋、分岐器、駅舎、昇降設備、信号保安設備等の検査業務や修繕・更新工事の管理を行います。

✓ 車両管理所



走行装置・主回路・制御回路・ブレーキ・一般電気・車体・その他装置など、日々の安全運行のための検査業務を行います。

✓ 本社部門



軌道や駅設備の新設工事を行う際の設計や積算、また修繕計画の策定などを行います。この部署はデスクワークが中心となります。

技術職の1日(例:設備管理所)

技術職にとって、モノレールの営業が終了し点検に集中できる夜間帯が重要な時間。日勤/宿泊勤務を交代制で行っています。

- ▼08:30 出勤・点呼
- ▼09:00 メール確認・施工業者との打ち合わせなど
- ▼12:00 昼食
- ▼13:00 その日の夜間作業についての打ち合わせ
- ▼14:00 現場での定期点検業務

- ▼17:15 夕食・仮眠
- ▼23:15 夜間作業開始
- ▼04:00 夜間作業終了・報告書作成などの事務業務終了
- ▼08:30 業務終了

TRAINING [教育体制]

社員のスキルアップにつながる研修を各種行っています。

運転士養成教育 (約9ヵ月)

運輸職の方は、入社1~2年を目安に国家資格である「動力車操縦者運転免許」取得を目指し、専門の運転士養成教育を受講いただけます。

テーマ別 研修

「多言語研修」「防護術研修」など、サービス向上に向けた様々な研修を随時実施しています。

資格取得 支援

「施工管理」「電気工事士」などの資格取得を目指す方には、取得費用の補助を行っています。

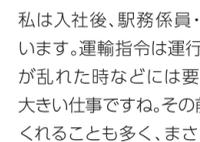
REAL VOICE

入社した理由&社員が感じる会社の魅力とは?



運輸部 駅務管理所 駅務助役
星 絢子(2008年入社)

地域に密着した企業への就職を考えており、多摩都市モノレールに入社しました。これまでに、駅務係員、運転士、本社での企画担当などの業務を経験。特に企画担当をしていた頃は、ビール列車やワイン列車といったイベントの企画や、楽器ができる社員を集めてイベントで演奏を披露する「多摩モノ音楽隊」の結成など、思い出がたくさん残っていますね。そして今は社内試験をパスし、現場の管理・監督的な立場である「駅務助役」として勤務しています。駅務・運転士・本社部門と様々な経験ができるのは、数年ごとにジョブローテーションがある多摩都市モノレールならではの魅力だと思います。



運輸部 指令センター 主任運輸指令員
羽生 聡(2008年入社)

私は入社後、駅務係員・運転士を経験し、現在は運輸指令員として勤務しています。運輸指令は運行の調整や指示出しをする部署。何らかの理由でダイヤが乱れた時などには要となる責任も重い部署ですが、やりがいや達成感が大きい仕事ですね。その前の運転士時代は、小さなお子様に乗務中に手を振ってくれることも多く、まさに鉄道の花形として嬉しい経験をたくさんしました。多摩都市モノレールの魅力は営業区間が短い分、地域に密着した会社であること。各駅ごとに独自でイベントを企画するなど社員はみんな「多摩地域のために」という理念と思いやりの心を大切に仕事をしています。



運輸部 設備管理所 設備主任
遊佐 裕人(2016年入社)

交通インフラに関わる仕事、そして沿線地域に深く貢献できる仕事がしたいと思い、多摩都市モノレールに入社しました。この仕事は夜間作業があったり、他部署や施工会社との調整業務など大変と感じる点もありますが、緑の下の力持ちとして、いつも通り・当たり前モノレールが運行しているのを見ると嬉しさを感じますね。当社はあまり大きな会社ではない分、若手でも大きな仕事を任せてもらえることもやりがいになっています。これから入社される方にも「これがやりたい」と自分の目標を持ち、常に向上心を持って仕事に取り組んでいただきたいと思います。